

# センダンの木

大野城市教育委員会



センダンの花 (春)



センダンの花 (春)



校庭のセンダンの木 (春)



夏のセンダンの木

センダンの木は、大野城市瓦田3丁目800番地の大野小学校の校庭にそびえ立っています。この木は、1994年(平成6年)3月18日に大野城市の天然記念物てんねんきねんぶつに指定されました。センダンの木は、センダン科らくようの樹木で熱帯アジアに広く分布している落葉の高木です。日本では、九州や四国でよく見かける木で、初夏には、小さな紫色の花が房状に咲き、秋には、1センチ余りの黄色い実を付けます。大野小学校のセンダンの木は、高さが約9.8mで、幹周りが、約2.5mあり、樹齡じゅうれいは、150年から200年と推定されています。このような大木を見かけるのは、市内はもとより、周辺地域を含めて稀まれなことです。大野小学校のシンボルとしてのセンダンの木は、大正3年せいひょうき旌表旗受賞を記念して、大野城市うしの牛うし頭くびの山中から移植された老木です。植樹当日は、牛頭小学校の子供たちも参加しての大きかりな事業であったようです。今は、運動場の真ん中にそびえ立っていますが、当時は、運動場と民家の境に植えられたそうです。しかし、たび重

なる校庭の拡張工事によって、現在のように運動場のほぼ中心に位置するようになりました。ところが、数年前の台風の被害にあってから、めっきり衰弱してしまいましたので、学校と地域住民で元のような元気なセンダンの木にしようという運動が起こりました。そうして、樹木医による治療



治療中のセンダンの木

を見られたようです。——木のさまにくけれど、棟の花いとをかし、かれがれにさまことに咲きてかならず五月五日にあふもをかし——と清少納言の枕草子（三十七）の中に書かれています。



秋のセンダンの木



冬のセンダンの木

を続けた結果、今では、緑の葉をいっばいに茂らせ、見違えるほど元気になりました。もともと、大野小学校の校庭にセンダンの木を植えられるようになったのは、大野小学校の子どもたちがすぐれた素質を子どもの時から磨き育てていくこと、そして、大きな心を持った人間に育つことを願って植えられたそうです。また、センダンは、古くは、棟（現代表記では、おうち）と呼ばれ、文学作品の中にも散見し、古い時代から近畿地方でも

また、——妹が見し棟の花は散りぬべし 我が泣く涙 いまだ干なくに——と万葉集（巻5-798）に詠まれています。

なお、大野小学校では、毎年、学校全体で人々に勇気づけてくれるセンダンの木に感謝する「センダンの集い」を実施し、楽しいひとときを過ごしています。また、校庭からは、センダンの木の下で遊びまわる子どもたちの歓声がいつも聞こえています。子どもたちは勿論のこと、一般市民も、二百年あまりの歴史を見つめてきた、このセンダンの木を眺め昔を思いおこすとともに、特に夏は、涼しさを求めて木の下に集まり、楽しい憩いの場にもなっています。そして、秋から初冬にかけて、えさを求めて多くの鳥たちが黄色い実をついばんでいるようすをよく見かけます。この貴重なセンダンの木を末永く、みんなの力で保存していきたいものです。